

現代日本論概論「現代日本における職業」

第7講 ジェンダーと労働

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 性別による働きかたのちがい

1 中間試験について

配点は、各12点×3問 = 36点満点。

- 結論に至る道筋を明示すること
- 漢字を間違えない
- 労働組合の交渉力の源泉
- 一般的人的資本 / 特殊的人的資本 / 企業特殊的人的資本
- 労働者派遣企業 / 派遣先企業 / 派遣労働者 の三者間の関係
- 問3の題意

2 課題

別紙のグラフ (Suzuki and Tanaka 2013, p. 204) (総務省統計局「労働力調査」2010年による) をみて、次のことについてまとめよ

- 男女間のちがい
- そのようなちがいが生まれる原因

3 復習

- 性別役割分業とは?
- キャリア間の葛藤とは?
- なぜ非正規雇用が選択されるのか?

4 M字型曲線

現在の日本社会では、女性の労働力率を年齢階級別に描くと、30代後半を底とする曲線となる。このグラフの形がアルファベットのMに似ているので、「M字型」曲線と呼ばれる。

一方、男性の労働力率は、20代後半～50代まで90%を超えており、また、中年期の落ち込みがない(高原型)。

文献

- 嵩さやか・田中重人 (編) (2007) 『ジェンダー法・政策研究叢書9 雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会.
- Suzuki, F. and Tanaka S. (2013) “Women, work, and family issues.” Tanaka, S. (ed.) *A quantitative picture of contemporary Japanese families*. Tohoku University Press.